

公益社団法人尼崎市シルバー人材センター

中期計画

(令和5年度から令和7年度)

令和5年3月

公益社団法人尼崎市シルバー人材センター

公益社団法人尼崎市シルバー人材センター

中期計画（令和5年度から令和7年度） 目 次

1	中期計画策定の趣旨	
(1)	センターの現状と課題	2
(2)	中期計画の策定	2
2	中期計画	
(1)	中期計画の構成	3
(2)	基本理念	4
(3)	基本方針	4
(4)	計画期間	4
(5)	基本目標	4
3	事業の展開方向	
(1)	運営の主体となる会員数の維持・拡大を図る	5
(2)	会員へ提供する仕事を開拓する	5
(3)	会員の安全を図る	6
(4)	法人の安定運営を図る	6
(5)	会員の社会参加を支援する	6
(6)	センターの魅力づくりを進める	7
(7)	SDGsに取り組む	7
4	参考資料	8

1 中期計画策定の趣旨

(1) センターの現状と課題

公益社団法人尼崎市シルバー人材センター（以下「当センター」という。）は、就労を通じた高齢者の生きがいづくりと高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりを目的に昭和55年に設立された。

設立以来42年にわたり活動を続けてきたが、会員数は平成24年度の5,135人をピークとし、この10年間は常に右肩下がりの状況にある。

年金の受給開始年齢の引き上げや定年延長等会員減少の要因はあるものの、シルバー人材センター事業の根幹となる会員の減少は、当センターにとって大きな問題である。

また、契約額も平成18年度の18億4,800万円をピークに低迷し、この10年間は16億円前後にとどまり、指定管理の分野を除けば減少若しくは頭打ちとなっている。

令和5年10月に導入される適格請求書保存方式（以下「インボイス制度」という。）により、当センターの納税額が段階的に膨らむことから、この原資を確保するため、仕事開拓への取り組みが喫緊の課題である。

(2) 中期計画の策定

ア 兵庫県シルバー人材センター事業推進計画

兵庫県シルバー人材センター協会（以下「兵シ協」という。）では、計画期間を10年とした中長期計画が令和5年3月に満了するため、次期計画の策定を検討してきた。

高齢法等法制面での改定や、令和5年10月から導入されるインボイス制度の影響等、今後益々シルバー人材センターの運営に厳しさが増すことが想定される一方、社会経済情勢について明確に見通すことが困難となっている。

このことから、本格的な中長期計画ではなく、3年間の事業推進計画とし、これまでの3年間で大きく落ち込んだコロナ禍からの回復、会員の減少・高齢化、インボイス制度や新たな課題であるSDGsへの対応等、喫緊の課題への取り組みを主な内容としている。

イ 尼崎市シルバー人材センター中期計画の策定

当センターでは、平成12年に初めて中期計画を策定、5年間の中期的な視点に立って各種事業を計画した。平成18年には、第2次中期計画、その後事業活性化計画へ名称を変更し策定を重ね、第3次の

事業活性化計画は、令和4年3月でその計画期間を満了した。

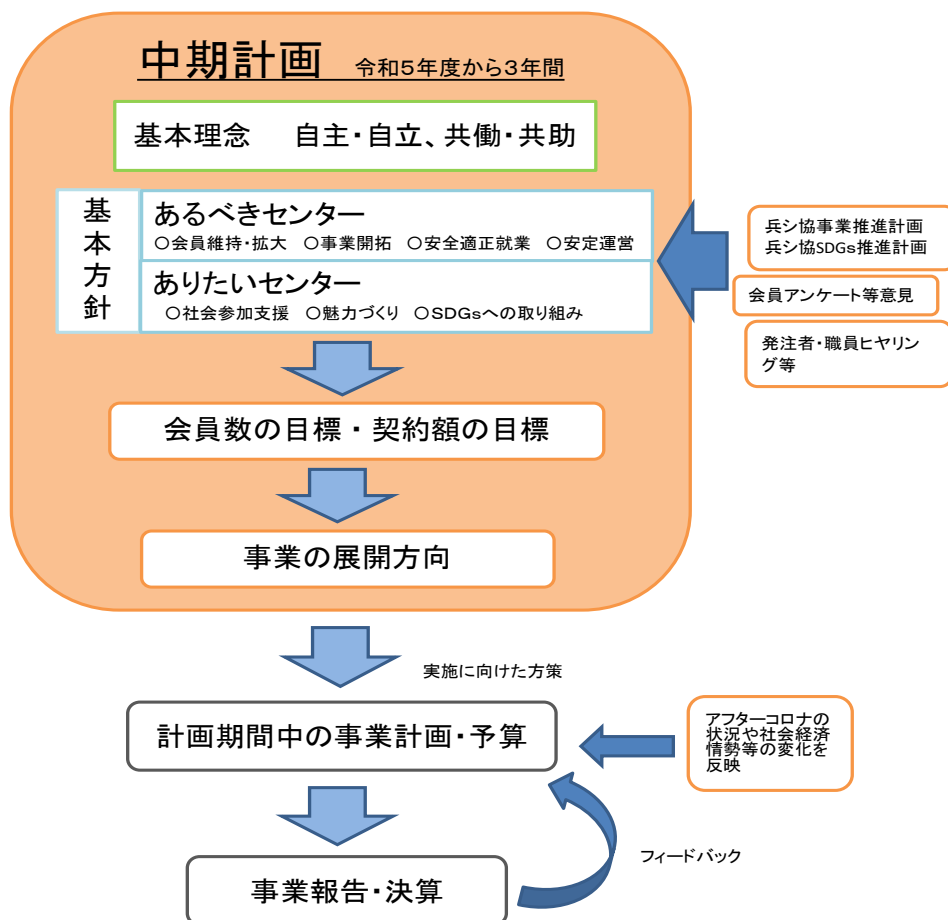
本来であれば、令和4年4月からの計画を策定すべきところであったが、コロナ感染症の状況を始めインボイス制度の動向等を考慮するとともに兵シ協の中長期計画の策定状況を勘案し、計画開始年度を1年間繰り延べ、令和5年度からの計画として検討を進めてきた。

令和5年3月、兵シ協においては前記のとおり3年間の計画を策定することから、当センターの計画期間や取り組み内容においても、兵シ協の事業推進計画と足並みを揃え策定することとした。

また、名称については、「人生百年時代」のシルバー人材センターとして新たなスタートを切ることを明らかにするため、事業活性化計画の名称を「中期計画」に戻し、「第〇次」という表記は使わず、「〇〇年度～〇〇年度」という計画期間を併記することとした。

2 中期計画

(1) 中期計画の構成



(2) 基本理念

「自主・自立、共働・共助」とする。

このシルバー人材センター事業の基本理念のもと、当センターの会員・役員・職員が一丸となり中期計画を推進する。

○「自主・自立」

会員自らが目標を立て工夫し、問題を解決する。

会員自らで討議、検討し、決定したことを自らが主体となり活動する。

○「共働・共助」

個人の持つ能力の長所を生かし、それぞれの短所を補い、共に助け働く。働く喜び、働いた後の充実感を仲間とともに分かち合う。

(3) 基本方針

コロナ感染症に加え、物価高による景気後退など、先を見通せない社会経済情勢の中、あるべきセンターとありたいセンターの2つに分けて、優先的に取り組む事項を明らかにし、基本方針とする。

なお、基本方針に掲げた項目以外であっても、全国シルバー人材センター事業協会（以下「全シ協」という。）、兵シ協等関係団体の計画や地域社会の要請などを参考にして、必要な取り組みを行うとともに、持続可能でより良い世界を目指すSDGsの達成に向けて努力する。

ア あるべきセンターについて

○運営の主体となる会員を維持・拡大する

○会員へ提供する仕事を開拓する

○会員の安全を図る

○法人の安定運営を図る

イ ありたいセンターについて

○会員の社会参加を支援する

○センターの魅力づくりを進める

○SDGsに取り組む

(4) 計画期間

令和5年度から令和7年度までの3年間とする。

(5) 基本目標

ア 会員に関する目標

会員数4,000人の維持

令和4年度から開始した新入会員随時受付制度や会員紹介制度の充実などにより、一定の成果が出ているが、更に各種の取り組みを図り、会員4,000人の維持を目指す。

イ 契約額に関する目標

年間16億円台の契約額確保

当センターが継続して安定した運営を図るためには、前項の会員拡大に加え、高齢者にふさわしい仕事の開拓・提供が不可欠である。

現在請けている契約を継続して受託するための努力も含め、年間契約額16億円台の確保を目指す。

3 事業の展開方向

項目ごとの主な方向性、取り組み内容については次のとおりとし、社会経済情勢等の変化を勘案のうえ、計画期間各年度の事業計画で具体化を検討する。

(1) 運営の主体となる会員数の維持・拡大を図る

シルバー人材センター事業を支え推進する会員数の維持・拡大を図る。

ア 入会促進

- 入会受付方法の工夫
- 女性会員の拡大 注1
- 各種媒体を活用した入会の働きかけ
- 夫婦会員の検討 注2
- 入会特典・会員特典の検討
- センターの魅力づくり、イメージアップ

注1) 全シ協重点取り組み

注2) 会員アンケート報告 回答者の50%以上が夫婦世帯

イ 退会抑制

- 共済事業、社会参加の機会提供 注3
- 高齢会員向けの仕事提供 注4

注3) 会員アンケート報告 独居会員が25%

注4) 会員の平均年齢74.8歳 10年で4.1歳上昇

(2) 会員へ提供する仕事を開拓する

高齢者にふさわしい仕事を開拓し会員へ提供する。

ア 新たな仕事の開拓

- 尼崎市・外郭団体・民間企業からの新規受注掘り起こし
- 人手不足分野への対応 注5
- 女性向けの仕事の確保
- SDGsへの取り組み周知 注6

注5) 全シ協重点取り組み

注6) 兵シ協SDGs推進宣言

イ 継続受注の努力

- 就業会員の早期確保、円滑な交代・補充
- 就業会員の技能向上、コンプライアンス遵守等

(3) 会員の安全を図る

当センターの会員が安全・適正に就業できる体制を整える。

- 安全研修会等の受講促進
- 無理のない就業体制の点検
- 健康づくりの支援 注7

注7) 会員アンケート報告 シルバーに入会して良かったところ1位

(4) 法人の安定運営を図る

社会経済情勢が不透明な中、当センターが継続して安定した運営を図るため、各種組織の活性化・効率化、財政基盤の安定化を進める。

なお、インボイス制度の導入に伴う、新たな税負担への対応については、国、全シ協、兵シ協における検討結果を踏まえ検討を進める。

ア 各種組織の活性化・効率化

- 理事会の活性化
- 地域班組織の活性化・効率化
- 事務局機能の強化
- 会員のデジタル化推進 注8

注8) 全シ協重点取り組み

イ 財政基盤の安定

- 新規事業の開拓
- インボイス制度への対応
- 各種経費の見直し

(5) 会員の社会参加を支援する

会員がそれぞれの希望に応じたところで就業することが第1の社会参加であるが、就業以外でも色々な形で社会とのつながりを持つことは有益であることから社会参加の支援を行う。

- 共済事業の充実
- デジタル対応研修の実施
- 地域活動等の情報提供

(6) センターの魅力づくりを進める

会員アンケートでは、当センターに入会して良かった理由として「健康になった、健康維持に役立っている」「生きがいができ、生活にハリがでた」「友達ができた」が上位を占めている。

このようなシルバー人材センター事業の魅力をもさらに増やし、効果的に発信していくことで、イメージアップを図り、会員拡大・事業開拓につなげていく。

ア 魅力づくり

- 会員同士の交流支援
- 早期の仕事紹介
- ペア就業など長く働ける方式検討
- 各種研修・講座の定例実施

イ 情報発信

- 市報等広報誌の活用
- 就業事例等ホームページの活用
- 効果的なのぼり、看板設置
- 効果的なチラシ等の作成

(7) SDGsに取り組む

令和4年10月に宣言された兵シ協SDGs推進宣言に則り、兵庫県下のシルバー人材センターは、「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」というSDGsを規範の一つとして、地域社会の課題やニーズを敏感にとらえ、事業活動及び社会貢献活動を通して地域社会の持続的発展に貢献していく。

ア SDGsの周知・啓発

SDGsの17の目標に向けて会員がそれぞれの立場で取り組めるよう、SDGsの活動内容について、周知・啓発を図る。

イ センターとしての取り組み

シルバー人材センターの各種の事業活動を通して、SDGsの達成に向けて努力していく。

センターにおけるSDGsの取り組み



4 参考資料

会員アンケート 別添のとおり